

## アジア博物館と井上靖記念館

アジア博物館は、アジア大陸を横切る古代の交易路シルクロードから伝わった生地やその他の文化的遺物を複数の建物の中で展示する、珍しい博物館です。米子鬼太郎空港近くの和田地区の海から少し離れた場所にある伝統的な庭園を中心として、5つの展示室と入口となる建物が囲むように集まっています。これは地元の実業家である横地治男氏（1912～2007）の個人的な趣味を反映した民間の博物館です。来館者は時計回りに展示室を巡るのがおすすめのことです。

1つ目の展示室には染色と機織りの工房があり、伝統的な日本の糸紡ぎ、染色、および機織り用の道具や手順が紹介されています。2つ目は絣の展示室で、着物、キルト、および暖簾など、地元の高級な藍染の絣製品が展示されています。また、江戸時代（1603-1867）にこの地域が交易の中心地として栄えるのに一役買った、北前船という貨物船の6分の1の模型も展示されています。3つ目はペルシャ絨毯の展示室で、主には18世紀と19世紀のペルシャの伝統的な織物や刺繍などをおさめたラヒム・アナビアンコレクションが展示されています。4つ目はモンゴルの展示室で、チンギス・ハーンやモンゴル文化に焦点を絞り、服装や織物などの展示が行われています。この展示室の最大の目玉は、チンギス・ハーンの王室用のゲルを運ぶ様子を模したジオラマです。運搬には、24頭の牡牛と大きな木製の荷車が必要でした。

最後の5つ目の展示室では、日本の著名な作家である井上靖（1907-1991）の生涯と作品を展示しています。ここでは、井上靖の書斎が再現されており、実際の書庫や机、私物の数々が展示されています。順路通り進むと、最後に目に入るのが玄関ホールでの展示です。エミール・ガレやその他の芸術家によるアールヌーヴォー様式のガラス細工が展示されています。カフェで休んだり、ミュージアムショップを見て回ったりすることもできます。